

派遣先所属 宮城県教育庁文化財保護課 氏名 末木 啓介

派遣期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

三陸沿岸道路(仙塩道路)拡幅工事に先立つ埋蔵文化財の発掘調査業務に当たっています。三陸沿岸道路は宮城県から青森県までの太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で東日本大震災からの復興には欠かせない物流の基幹となることが期待されています。

このうち、仙台港北IC(仙台市宮城野区)から利府JCT(宮城郡利府町)までの間は仙塩道路と呼ばれています。既に平成9年3月に片側1車線で開通していましたが、復興道路として片側2車線化と多賀城ICの建設が計画されました。計画地内には古代の遺跡として著名な山王遺跡が存在することから、工事に先立ち発掘調査が行われています。

山王遺跡は国指定史跡多賀城の南西に位置し、幅23mの南北大路と幅12mの東西大路を中心に東西・南北に走るいくつもの道路により碁盤目状に区画された計画都市跡です。

これまでの発掘調査により奈良時代終わり頃から都市として整備され始めたことが分かっています。また、南北、東西の大路沿いには都から多賀城に赴任した国司など高級官人の館と思われる大型建物や庭園遺構などが発見されています。このほか、役所で不要となった文書を漆容器の蓋紙として再利用した結果、漆が文書に染み込み腐らずに残った「漆紙文書」が発見されるなど古代東北の歴史を知る上でとても重要な遺跡です。今回の発掘調査でも庭園遺構の続きや建物の柱跡などが次々と発見されています。

また、貞観11年(869)に発生した貞観地震に伴う大津波は平安時代に書かれた日本三代実録によると当時の多賀城下まで押し寄せたと考えられることから、発掘調査ではこの津波の痕跡を探し、再び起こるであろう大津波への対策の参考となるよう記録することも重要な作業となります。



発掘調査地点(シートのあるところが調査地)
大雨で水没してしまっています。



発掘調査地点(シートのあるところが調査地)
大雨で水没してしまっています。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

東日本大震災からの復興についての報道が連日のように行われています。そうした報道の中には遺跡(埋蔵文化財)の発掘調査が復興の大きな障害となっているという内容のものもあります。一方で、地域の遺産、財産として記録し地域のために活用していくべきだという意見もあります。

被災地の復興は待たなしであることはいまでもありません。しかし、復興工事に先立つ遺跡の発掘調査はその土地の歴史を記録する作業であり、地域の歴史を紐解く上でとても重要なものといえます。

地下に残された遺跡は、一度壊されると元には戻りません。建物やインフラ整備などハード面の復興がまず急がれますが、文化や文化財といったソフト(心)の復興も長い目で見た場合重要な要素となります。

震災復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査には、被災3県に暮らす多くの方々が作業員として携わっています。水が湧くような発掘現場での水汲みやスコップによる掘り下げなどの大変な作業も厭わずに笑顔を絶やさず作業をされている方々をみると、全国各地から派遣されている職員も逆に元気づけられます。

東日本大震災の復旧・復興に伴う発掘調査の全国的な支援はまだ始まったばかりです。今後とも被災地の少しでも早い復興を願うとともに、新たに発掘された地域の歴史がその復興の一助となるよう努力してまいります。



発掘調査に参加している地元の方々